

富士中だより

八丈町立三根学園富士中学校 令和3年12月20日 第8号

ホームページ <http://www.hachijomachi-tyky.ed.jp/fuji-jhs/>

◇ 学校教育目標 ◇

自ら進んで学ぶ生徒
人や自然を愛する生徒
健康でねばり強い生徒
《校訓：自主・敬愛・根気》

「楽しい」という言葉

副校長 榎本 秀子

12月になり、風の強い日は寒いと覚ることもある季節となりました。2学期の学校行事が滞りなく実施できましたのは、保護者・地域の皆様のご協力のたまものと感謝申し上げます。

2学期が始まって間もなくは、まだ残暑が厳しい日もありました。そんな中、運動会や管内陸上競技記録会の練習では、本番に向けて頑張る姿が立派でした。11月の合唱コンクールでは、一致団結した取組が素晴らしかったです。そして、行事での態度や姿勢がメリハリのある生活につながり、学習へ気持ちを高めることができました。今では長丁場の2学期も締めくくりの時期となり、冬休みを待ち遠しく覚る声が聞こえてきます。年末年始に向けて準備に大忙しという声の一方で、3年生は進路に向けて学習に取り組み、冬休みを有意義に過ごすための工夫を一人一人が覚えている時期です。

「どうして冬休みが待ち遠しいのですか。」と質問すると、「楽しいことがたくさんあるから。」という返答でした。「楽しい」とは、どういうことなのでしょう。国語辞典に載っている意味の一つに、「満ち足りていて、愉快的な気持ちである」とあり、「毎日が楽しい」、「楽しい生活を送る」等の例文がありました。

人は、どのような生活の場面で「楽しい」と覚るのでしょうか。好きなことに夢中で取り組んでいるとき、自然に触れているとき、動物と戯れているとき等、チャレンジやリフレッシュの場面で「楽しい」と覚ることが多いようです。

登山家である山野井泰史さんは、報道ニュースの取材の中で「自分の能力を最大限に引き出している瞬間が、やっぱり僕の中では一番楽しい」と語っています。また、雪崩の事故で手足の指を10本失いながらも指の使い方や体のバランスを保つコツを身に付けて、手ごわい岩壁を征服する目標に挑戦し続け、テントが落石で壊されても登山中に手の傷口から出血しても「命をかけて楽しんでいきますから」と語っています。私達も、自分の能力を最大限に引き出そうと目標に挑戦している過程で課題にぶつかることがあります。そのようなとき、どのように覚えると、「楽しい」と覚ることができるのでしょうか。

ニューヨークヤンキースの元選手である松井秀喜さんは、『不動心』という書物の中で「心の構えで挫折は力に変わる」と書いています。「肩の強さで負けるならば、ボールを取ってから素早く投げる」、「足の速さで負けるならば、守備位置を研究し、最初の一步を素早く出せばいい」、そして自ら可能性を捨てず「自分のバッティングを乱さぬよう、イライラした時は態度や口には出さない。心の乱れは、得することなど何もない。グッとこらえていれば、次に生きることもある」と覚るそうです。

私達の日常の生活や学習でも、松井秀喜さんのようなマイナスをプラスに変える覚ができるかどうかが鍵となるでしょう。誰もが素質や能力がないとは思いたくありませんが、山野井泰史さんも置かれた状況や姿勢を素直に受け入れ、前に進むことを覚ることで「楽しい」ということができる生き方を語っています。自分自身の経験では、音楽大学在学中はひたすら楽器と向き合い、練習の日々でした。楽しいと言えることは一つもないと思われがちですが、こんな演奏がしたい、合奏ではこんな音を出したい、と自分で目標を設定して練習を重ねます。今振り返ると、発表に向けて練習して試行錯誤を繰り返し、仲間と話し合う過程が充実していて楽しかったです。

自分の課題と向き合うとき、弱点を素直に受け止め、強みと捉えることで克服への道筋が見えてくる場合があります。学習では、応用・発展問題がなかなか解けないという声をよく聞きます。一つの解き方から考えが広がらないと言われますが、それは一つのことに集中できている証です。集中できることを強みと捉え、自分から進んでいろいろな問題に挑戦することで、たくさんの解き方に触れることができます。さらにさまざまな分野で力となることでしょう。冬休みは、自分と向き合い、「楽しい」と覚ることにつながるような充実した毎日を過ごすことを期待いたします。今後とも富士中学校では、学校生活の様子や取組を学校ホームページ等で紹介していきます。どうぞご覧ください。

東京都中学校駅伝競走大会

11月13日（土）、江東区夢の島競技場特設コースにて東京都中学校駅伝競走大会が行われました。選手たちは島内予選を勝ち抜き、合同練習を経て、代表としての意識を高くもって参加しました。新型コロナウイルス対策のために修学旅行の日程が変更になり、富士中3年生は京都から帰ってきた次の日に駅伝大会でしたが、修学旅行期間中にも夜明け前から走り込んできた成果を出すことができました。

今年も昨年に引き続き厳選された都内上位60校での開催となりましたが、結果は男子が38位、女子が21位と大健闘でした。富士中からは男女9名が参加し貢献しました。

大会参加に当たり皆さんの協力やご声援が選手たちにとって大変励みになりました。ありがとうございました。
（保健体育科：氏部 和昭）



絵本の読み聞かせ



11月30日（火）5時間目に三根学園の小中交流の一環として、中学1年生が小学1～2年生に絵本の読み聞かせを行いました。この取組に向けて10月の初めに、三根小学校の金川孝子先生に読み聞かせのポイントを丁寧に教えていただきました。朝読書や昼休みの時間を使ってたくさんの絵本を読み、「小学生に読んであげたいな」と思う本を生徒自身で選びました。練習では2人ペアになって10分間の構成やクイズなどを考え、次に2つのグループをつかって読み聞かせを行い、グループごとでお互いの良いところや課題を指摘しあいながら本番に向けて練習を重ねてきました。初めは読むスピードや声の大きさ、時間配分に苦戦していましたが、練習を重ねていくことで自信を持って読めるようになりました。

当日は少し緊張していた様子が見られましたが、読み聞かせが始まると気持ちを込めて絵本を読み、小学生はじっくりと耳を傾け、身を乗り出して聞いている様子が見られました。余った時間では、絵本に関するクイズをしたり読み聞かせの感想などを聞いたり、互いに交流を楽しんでいる様子が印象的でした。

今回の経験を通して感じたことや学んだことを活かし、今後の学校生活に役立てて欲しいと願っています。
（1学年：加藤 花苗）



～3年生 修学旅行～

11月9日（火）～13日（土）にかけて、3年生は修学旅行で東京、広島、奈良、京都を訪れました。本来であれば4月に行くはずの修学旅行でしたが、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言のため、昨年同様11月に延期となりました。そのため、合唱コンクール（11月6日（土））の3日後が出発日という慌ただしい日程となりましたが、2年生の頃から準備を進めていたため、特に大きな混乱もなく当日を迎えることができました。

初日は悪天候のため、1便の飛行機が飛ばいかどうかも危ぶまれる状況でしたが、保護者の皆様に見送られながら、どうにか出発することができました。初日の班行動場所である上野公園も大雨となっており、歩きづらい中ではありましたが、上野動物園や国立科学博物館などで各班様々な展示物を見学することができました。2日目の広島も小雨まじりの天候でしたが、平和記念資料館の見学、原爆の子の像への折り鶴の奉納、厳島神社での見学と、滞りなく予定通りの見学を終えることができました。特に原爆の子の像前の様子はgoogle meetで東京と中継を行い、全員で式に参加することができました。3日目の奈良も小雨まじりの天候ではありましたが、奈良公園の鹿と戯れたり、東大寺の大仏の大きさに圧倒されたりと、奈良の歴史文化を楽しむことができたのではないかと思います。京都に移動したころには日も暮れており、紅葉のライトアップで有名な高台寺の近くを歩きながら宿まで移動し、夜の京都の美しさを楽しむこともできました。4日目の京都はようやく天候に恵まれ、秋晴れのなか各班存分に京都の史跡や文化を満喫できたかと思います。夜には島嶼会館に武井先生や近藤先生をはじめ、異動された先生方が会いにきてくださり、久々の再会を果たすことができました。

5日間を通して生徒たちはしおりの行程を確認しながら自分たちで先を見て行動し、班長・副班長をはじめ、各係の生徒がしっかりと自分の役割を果たすことができました。引率している教員がほとんど声をかける必要がないほどでした。3年間の成長を感じることができた修学旅行でした。

（3学年主任・担任：小泉 国広）





「ふじしばすくえあ。」



11月20日（土）の土曜授業終了後に、本校の芝生エリア「ふじしばすくえあ。」の整備を生徒・保護者・教員有志で行いました。間際のお知らせにもかかわらず、保護者の方にもご参加いただき、「ふじしばすくえあ。」の刈った草や雑草の除去を行うことができました。今年度から富士中学校では芝生活用推進委員会を立ち上げ、芝生エリアの活用と整備を進めています。今年度は体力向上の取り組みや学年の親子レクを「ふじしばすくえあ。」で行うなどしました。今後も、芝生の活用や定期的な整備を企画・推進していきますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。（芝生担当：木下 真一）

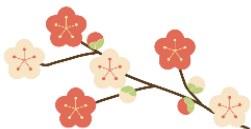


しゃべりにおじゃれ

富士中学校の教育相談の一つとして「しゃべりにおじゃれ」という取組があります。勉強や進路の悩み、気になることなどを先生方と気軽に話す、面談週間のことです。対象は全校生徒で、学期に1回の年3回予定されています。3学期は希望制ですが、1，2学期は全校生徒を対象に行っています。1学期の「しゃべりにおじゃれ」では、生徒は自己紹介カードを持参し、先生方に自分を知ってもらうことから始めます。意外な趣味や共通の話題が見つかることもあり、そこから話が膨らんでいくことも多いです。2学期の「しゃべりにおじゃれ」は、運動会、記録会、合唱コンクールなどの行事を終えていることもあり、多くの生徒が深い話をしているようです。

お互いの信頼関係の上に成り立つこの取組ではありますが、どうやって話す相手を決めるのかというと、くじ引きです。どの先生になるのか、生徒たちは運を天に任せてくじ引きを行うのです。学年や部活動・委員会に関わる時間の多い先生の場合もあれば、校長先生、副校長先生のように直接話す機会の少ない先生との組み合わせもあります。3年生の中には3年連続で同じ先生！という人もいて、こんなこともあるのだと不思議な気持ちになります。だれと話すことになるのかわからない、これがこの取組の面白さの一つです。「しゃべりにおじゃれ」で先生たちと色々な話をしたという経験が、困ったことが起きたときに大人に話をしてみよう、相談してみよう、ということにつながれば、との思いもあります。

「しゃべりにおじゃれ」通称「しゃべおじゃ」。今後も多くの先生と話す機会を設け、常に相談できる体制を整えていきます。（養護教諭：川口 美保）



～1月の主な予定～



1月11日（火）始業式

1月12日（水）避難訓練

1月14日（金）八丈カルタ大会

1月17日（月）生徒会朝礼

1月17日（月）～1月28日（金）生徒会週間

1月19日（水）町教研一斉部会

1月22日（土）土曜授業日

1月24日（月）学校朝礼

1月28日（金）三原中研究発表

1月31日（月）～2月4日（金）学校公開日